

広報

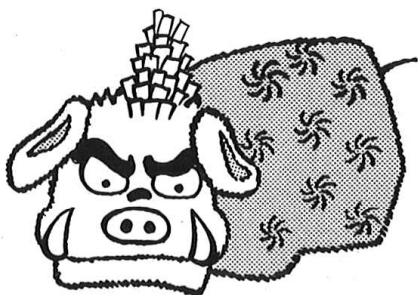
なかつえ

賀正



83/
1月号

No. 226



年頭にあたり



総合的な振興

所得増大と福祉増進を図る

村長 齊藤 隆一



新年明けましておめでとうございます。

多事多難の相つぐ中、昭和五十七年も過ぎ新たに激動の年、昭和五十八年を迎えました。

中東に於ける動乱の続く中、ブレジネフの死去にともなうソ連新政権の成立により、国際情勢は微妙な様相を呈しつつあり、世界的不況の下にありて貿易問題も益々困難な状況に直面しつつあります。

財政再建のための行政改革を主要命題とした新内閣の下に於いて、長期的経済不況に耐えながらの国内政治も多難が予想され、さらに地方自治体の行政運営は

交付金、各種補助金等の削減が予想され、誠に容易ならざるものがあります。

村政においては、基本計画に基き着々と村づくりが実施され、その成果も確実にあがりつつあります。

各種事業で

さらに農林業振興を

村づくり計画による、また県の一村一品運動の線にそった特産物の振興もわさび、きゅうり、お茶、しいたけ等、農協の営農指導、諸施設の整備の活発化、生産意欲の向上にともない、銘柄づくりと流産路の開拓順調に進み、その結果第一次産業としての農業も逐次定着しつつあります。

道路改良整備も進み、交通の要衝として九州の「へソ」的地位も確実に位置づけられつつあり、スーパー林道もすでに上、中津江間は開通し、五十七年度中には前津江村にも通ずる予定

であり、残すは舗装工事のみとなりました。

第三期山村振興事業、新農業構造改善事業、農免農道の諸事業も着実に軌道にのり、また林業集落整備事業も大半を終り、今後の農林業の振興が期待されます。環境整備事業も逐次進展し、栃原公園周辺、下笠ダム周辺等、計画通り整備されつつあります。栃原温泉も地表面温度摂氏四〇度の温泉源に成功しましたので、今後が楽しみです。本年度は、福祉面で同地に老人福祉センターを建設する予定です。

注目される

鯛生金山

鯛生金山跡地整備は、すでに坑内においての整備がほぼ終り、あとは坑外施設の整備をまっばかりとなっています。四月十五日をオープンとし、本年度は金山資料館等を建築、PRも逐次浸透し、各方面からの注目をあびつつあります。

教育面に於いては小中学校教育、社会教育ともにその成果があがり、各地から

の視察が相ついでいる現況です。なお、大分大学の地域教育センターもほとんど完成し、へき地教育、小人数小規模校教育について今後の利用が期待されます。

これを要しますに、第一次産業である農林業振興を主眼とし、これに一・五次、二次産業を連接させ、さらにその成果を第三次観光産業、福祉等に繁き、村民の所得増大と福祉増進を図り、村勢の発展を図っていく所存であります。

しかしながら、行政改革の進展する今後の自治行政はきわめて厳しいものがあります。自主財源の乏しい本村と致しましては、極力財源の確保に努めるとともに、諸経費を節約して歳出の減少を図り、効率的な財政運営をおこない、村民の付託にこたえたいと思えます。

新年にあたり、職員一同とともに心をひとつにし村政を担当致したいと存じますので、村民各位の絶大なご協力、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

住民意向を

優先して

議長 鷹野 勉



あけましておめでとうございませう。新しい年の始めにあたり、迎えました昭和五十八年が平和で明るくよい年であることを、まず祈念するものであります。

かえりみますと、去る昭和五十七年は国の内外ともに激動の年でありました。国外的には伝えられる海外ニュースの中、世界のどこかでいつも紛争と事件が絶えず緊張と危機感を伝え、さらにハイジャック、クーデター等、国際社会情勢の変動が年中報道されてきました。経済的にもわが国をとりまく貿易不均衡問題は各国の集中攻撃の的となり国際経済の不調不満はきわめて緊迫した重要課題とし

て未解決のまま年を越してしまいました。

一方国内の政治経済もこうした国際社会情勢の影響により、昨年は不況に明け不況に暮れた一年でありました。ドル高円安による経済の不調は国民生活に大きく波及し、わたしたちの生活設計に大きくひびきました。また昨年は、社会的にも航空事故、大火災、海難事故等、大事件大災害の発生にあわせて、急増する交通事故、青少年犯罪等、憂慮すべき事態はそのまま新年度に持越しています。

さて、わが村に於いては、幸いにして昨年は不慮の災害、事故も少なく、長雨による天候不順にもかかわらず、農産物も平年作に近い生産であり、比較的おだやかに年越しをすることのできましたことは、皆さんとともにご同慶に堪えないところであります。迎えました新年はどんな年でありましょうか。今年もは猪の年であります。直突猛进して不況と不安を吹きとばし、景気好転し生活の安定が望めるような政治、

経済を、昨年末に誕生した新しい内閣に期待したいものであります。

村の行政も年度変りに新事業計画が議会に出されるものと思いますが、村議会として基本的には村の計画に賛同するものであります。が、審議にあたっては十分これを検討し、裁決にのぞんでは、地域住民の意向が反映されるものを優位にとりあげ、村と協力してゆきたいと考えております。

地域産業と

観光のタイアップ

本年四月には強力にすすめてきた鯛生金山跡地の観光開発事業がオープンすることになっていきます。本事業は議会としても協力してきたものでありますので、

オープン後の発展と成果に期待しているものであります。また、この事業にあわせて、従来からの重点事業である農林業の振興にも一層の拍車をかけ、地域産業と観光のタイアップを図らなければならぬと思えます。

このほか道路網の整備、教育の充実、住民福祉の向上等、あらゆる面における村行政の振興発展には、議会をあげて協力しなければなりません。本年は統一地方選挙の年であります。四月には全国の地方行政の首長及び議会議員の選挙がおこなわれます。本村議会議員も今期の任期が終ることとなりますが、今期中のご指導とご協力に対し深甚の謝意を表する次第であります。

おめでとう

おめでとうのかけがえのない

村民各位の御指導御鞭撻を
お願いいたします

中津江村議会議員一同

ます。議員一同、残された任期に全力をあげ、村勢の発展と住民生活の安定に努力することを約して、新年のごあいさつと致します。

あいさつ

美化運動

教育長 佐藤誠一郎



明るいあいさつで思いやりの輪をひろげよう

① あいさつ（おはようございます。）は人間生活の基本であります。朝目ざめたら家族ぐるみで「おはようございます。」が言い合える家庭はすばらしい繁栄する生き生きとした家庭であります。家族会議を開いてあいさつを決めて、思いきって始めようではありませんか。人間生活のエネルギー源は家庭であります。ぬ

くもりのある家庭、そして
礼儀正しい家庭は栄えます
② 人に出会ったら、こち
らから先にあいさつしまし
よう。たとい相手が子ども
であっても、先にあいさつ
できたら、人生の勝負に勝
ったといえましょう。む
つかしいことですが、生き
る態度として大事なことで
はないでしょうか。勇気が
なければ出来ないことです。

③ 家庭、学校、地域の村
ぐるみの「あいさつ運動」
の輪を拡げて、明るいさわ
やかなものにししましょう。
みなで力を合わせなけ
れば出来ることではありま
せん。誰かがやるだろうで
なく自分から、そして自分
の身近かなところから手
つなぎあって始めましょう。

まわりをきれいにして住み
よい環境としましょう

① ゴミや空缶が散乱して
いても無関心で拾おうとい
う人が少ないのが日本の現
状です。第一にゴミや空缶を
どこにでも投げ捨てて平気
でいるという日本人の無感
覚さは誠に恥すべきことで
あります。自分さえ、自分

の家さえよければよしとす
る公德心のなさを正するこ
とは緊急のことといえまし
よう。

② ゴミや空缶を見つけた
ら努めて拾いましょう。
美化運動は、汚いものを
きれいにすることから始ま
ります。これは言うは易く
行うは難しです。これこそ
「拾おうか、拾うのは恥ず
かしいからやめようか。」と
いう内心の葛藤の中から「
よし、やるぞ。」の心が勝つ
て実行するまでには、大変
な勇気とたくましさが必要
であります。でも、やるべ
きであります。

③ 環境美化とか浄化とか
いわれますが、「場を清め
る。」というところまでいか
なければほんものではない
と思います。

清掃もハキモノなど整理
整とんも美化の内容であり
ます。日本人は床を磨くは
心を磨くとして古来から大
事にしてきた伝統の一つで
あります。

よそから訪れた人が、「
中津江に行くよ、きれいで
気持がいい。」と言われるま
でにしたいものです。

「あいさつ、美化運動」
を中津江風として定着させ
るまで、みんなの総力を挙
げてがんばろうではありません
せんか。これは、すべての
土台であります。これが出
来なくて、どんな美辞麗句
を並べ、どんないい企画を
しても、それは砂上の楼閣
にしか過ぎません。根っ子
は何かをじっくり考え合お
うではありませんか。

(中津江村入選標語)
① あいさつは言われる前に
自分から
② あいさつは大きな声で心
から
③ あいさつは心を結ぶ虹の
橋
④ 村の美化ひとりひとりが
心がけ
⑤ ゴミ一つ、拾う心の美し
さ
⑥ 投げ捨ては村が泣いてる
おこってる

「出初め式」には、年の初
めに行うさまざまな「事始め」
の意味がありますが、一般に
は、消防出初め式がよく知ら
れています。
わが国の本格的な消防組織
の始まりは、江戸の明暦
の大火(一六五七年)の
翌年に徳川幕府が設けた、
江戸の消防組織「定火消
(じょうびけし)」だとい
われています。
この定火消が、万治二
年(一六五九年)一月四
日に、江戸上野の東照宮
前で、初めての顔見世出
初め式を行いました。この日
にちなんで、東京では明治時



出初め式

代には、一月四日に、その後、
大正五年からは一月六日(途
中十五日になったこともあり
ます)に行われるようになり、
現在に至っています。
いまや新春を告げる風物詩
の一つとなった出初め式――
毎年、各自治体で、それぞれ
独自の行事が行われています。
なかでも、いちばん規模の
大きいのが東京の出初め式。
かつて、火事は、江戸の
華といわれただけあつ
て、消防庁職員のほかに
江戸消防記念会のメンバ
ーが参加し、「はしご乗
り」や「木やり」など、
江戸時代から伝わる伝統
的な火消しの妙技などが
披露されます。
こうした、江戸の風物
を懐かしむ観客のなかには、
いわゆるカーマニアもかなり
います。ポンプ車、化学消防
車、屈折放水搭車などの車両
や、消防艇、ヘリコプターな
ど最新鋭の装備を施した乗り
物が一堂に会するからです。
伝統的な技法と現代の科学の
粋と――出初め式は、若者に
とつても大きな魅力のよう
です。



ハンドルをにぎったら必ず守ろう!

安全運転5則

1 安全速度を必ず守る
40

2 カーブの手前でスピードを落とす

3 交差点では必ず安全を確かめる

4 一時停止で横断歩行者の安全を守る

5 飲酒運転は絶対しない

最近、基本的なルールを守らないため死亡事故が激増しています。
“安全運転5則”を実行し、悲惨な交通事故をなくしましょう。

* 鏡もち *

鏡もちのいわれは、丸い金属の鏡をかたちどったもちを神に供えたもの、人の心臓をかたちどったものなどの説があります。ついでこの間までのことですが、コチコチになってヒビの入った鏡もちを金づちで割って、お汁粉に入れて家中で大喜びして食べたものです。ところがだんだんとすたれて……。それにしても、鏡開きという江戸時代からの伝統が下火になるとともに、家族が共に相寄って祝い事をする機会が、またひとつ消えていこうとしていることも事実です。

* 初夢 *

「初夢というのはいつ見る夢のこと?」。昔の暦の上で春が始まる立春の明け方の夢が初夢といわれていましたが、その後、大晦日から元旦にかけてとなり、江戸時代には大晦日は徹夜をする風習がひろまり元旦の夜に、さらに東京あたりでは2日の夜というように、ややこしい話です。一富士、二タカ、三ナスビが縁起がよいとされていますが、べつにこれらの夢をみなくても、せめて初夢には悪い夢を見たくないと思うのは人情。それで江戸時代には宝船の版画絵を枕の下に敷いて寝る風習があったようで、その絵を「お宝お宝」といって売り歩くのが正月の風物誌でした。そして悪い夢を見ると、絵は川に流したそうです。

* 初もうで *

初もうで、昔は恵方(えかた)まいりと言って、その年の吉の方角にある神社仏閣にお参りすることが多く、その年の福德を祈ったといいます。恵方とはその年の干支によって“吉の方”と決められた方角をいいます。しかし最近では、それどころではない人出。マイカーでの初もうでが多く、交通の便を優先しているようです。



水野 重忠さん (栃原 建築業)

- ① 昭和十年十月二十八日
- ② 仕事、仕事があればいくらでも働くが、これだけは、まあ、やるべきことは責任をもってやりますよ。
- ③ やっぱ仕事が好き

す。さしあたっての生活といえは仕事が必要だし、十分とはいかないでしょうが、④ 観光事業プラス、それに関連しての事業、たとえば木工芸、民芸品の開発がおもしろい。ここにしかない商品の開発ですね。
この村ではやはり山林を生かさなければならぬ。今、山林が苦しいから、今やらなければ。
※あくまでキになることは木に關すること。これは木を扱う職業のキモチから。



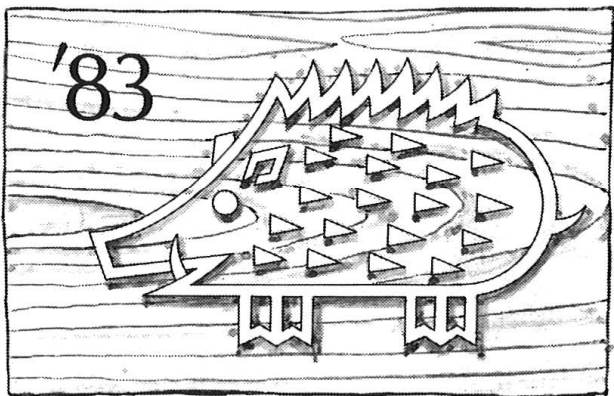
津江 良治さん (二又 農業)

- ① 昭和二十二年五月一日
- ② やればやるほどキリのない仕事、年齢も年齢だし、やっぱ仕事に対しての意欲の、自分自身の換起。
- ③ 仕事がほしいです。牛の

人口授精もやっているが、まだまだもの足りない。そのためには畜産業の発展をみなければ。
④ 行政、農協、農家とのつながりが薄い。後継者グループは多少あるのだが、横のひろがりがなく単発的になっている。これらには十分力を入れ指導をお願いしたい。それに村独特の事業というか、村にだけにしか、という事業があっても。
※ちなみに親父さんも年男。三代つづくには今年が。

人口授精もやっているが、まだまだもの足りない。そのためには畜産業の発展をみなければ。

私の顔



- ① 生年月日
- ② 今年の抱負
- ③ 今欲しいもの
- ④ 村への希望
- ※ チョット一言

かお.カオ

- ① 昭和三十四年三月十日
- ② そろそろ落ち着いたし年齢的にもヤマ場。すべてにすばらしい年になりそうなのというより、年にしたいですね。
- ③ 車は一応買ったし、後はピアノ、それに旅行。要するにそのためにはお金が必要ですが、また職場だけの視野でなく、職場を離れての友が欲しいです。
- ④ この地に来て驚いたことは、みんなが協力的なんですね。これも人づくりから

高瀬美保子さん (山本工 教員)
のことでしょうが、すばらしいと思います。そういう面から力を入れて村づくりをおこなってもらいたい。
※ 多少子どもっぽい回答がチラホラ、夢多き……。



高瀬美保子さん (山本工 教員)

- ① 昭和四十六年六月二十一日
- ② 今年は最上級生になるので、下級生にやさしくしてやりたい。それと勉強、スポーツを力一杯やりたいと思います。それと今年は金山ができるので、みんなと見学にいったり、遊びたいと思います。
- ③ あんまりないけど(無理に聞いて)、ゲームウオッチ、それとサッカーシューズぐらいです。
- ④ 遊び場がもつとあったら



高原 昭彦くん (小5生)

いいと思う。道がもつと広ければいいと思う。出て行く人を少なくして、人口を多くしてほしい。
※ インタビュー、回答は友だちの目を気にしながら。

お酒はたのしい上手に!

新年早々からお酒がますますなるような話題ですが、お酒の飲み方にも上手下手があります。そこでお酒はこんなふうにして飲むのが、という例を。①心楽しく落ち着いた気分できちんと飲む。②腹八分目、酒量もほどほどに。③マイペースとユアペースを大切に、酒の無理強いをしない。④週に二日は酒なしデーを。⑤強い酒は薄めて飲む。⑥肴(さかな)を十分にとる。新年を祝う酒ということで、ふだん飲まない人でも周囲がすすめるままに口にします。そんな人に「まあ、一杯」と無理にすすめても、それほど無作法とか失礼と考えない一面が、わたしたち日本人にはあるようです。

インフルエンザの季節!

今年もまた、インフルエンザの流行期を迎えました。インフルエンザにかかりやすいのは乳幼児と小学生、また死亡率では、老人が圧倒的に高くなっています。乳幼児、小学生、老人、つまり体の抵抗力の弱い年代が最もかかりやすいので、家庭では、その点の配慮が必要です。もし運悪くインフルエンザにかかったら、何はともあれ安静を保つことが先決です。要は「短期決戦」に徹することです。ぐずぐずしていると、いたずらに体力を消耗するばかりで、結局こじらせて寝込んでしまうことが多いのです。また、外出は自分のためにも、周りの人のためにも極力つつしみたいものです。

親子で作ろう 楽しい工作

廃物利用で 造形あそび

コマをつくろう

〈用意するもの〉

- 段ボール・カッター・接着剤
- 書けなくなったボールペン・フェルトペン
- 水彩えのぐ

〈作り方〉

片面段ボールをおびのようにほそく切りしんになる棒にまきつけていく

〈段ボールの切り方いろいろ〉

- おなじははに
- だんだんほそくに
- だんだんひろく

しんのまわりを上におしあげるとこんな形になります。重心のいちがうえになりふらふらします

はんたいに上から下におしおげるとこんな形になります

さらに下におしおげると、はじめとはんたいのような形になります。重心が「下」ですので安定します

① 接着剤をつける

② 段ボールのおび紙をぐるぐるまきつけていきます

③ さいごのところは接着剤でしっかりくっつける

④ どちゅうで「紙が」たりなくなったら、またつなぎます

④ 黄色と青色に色わけして水彩えのぐをぬる。コマをまわすとコマはなに色になるのかな? 色のくみあわせをかんがえてみましょう

書き損じたハガキ 交換されます

年賀状を書き損じた経験は、どなたでも1度ならずあることでしょう。親しい友人や恩師への年賀はがき…年に1度の便りのせいか緊張して書き損じたりします。そんなとき破って捨てないでください。

郵便局では、年賀状に限らず、官製はがきの場合、書き損じたり、汚したり、誤って印刷したりしたはがきを次の要領で新しいものと交換しています。

交換手数料は通常はがき1枚につき5円、往復はがき1枚10円、郵便書簡(ミニレター)10円です。

ただし、切手に相当する部分を汚したり、傷つけたりしたものは、お取り換えできません。

1月26日 文化財防火デー

昭和24年1月26日、木造建築で最古といわれた法隆寺の金堂が火災にあい、貴重な壁画などが焼失しました。

このような貴重な文化財を火災から守り、二度とくり返さないようにと、昭和30年からこの日を中心に文化財の防火運動を展開しています。日本人の歴史と文化の軌跡を示す文化財を炎の魔の手から守ることは、私たちひとりひとりの願いであり、責任であるといえます。

1年のうちでも冬場と春先は火災シーズン。日本人の歴史と文化をしっかりと守りたいものです。

おめでとうございます 第62回珠算検定合格者

11月21日、第62回珠算検定がおこなわれ、次の方が合格しました。

- ・8級…小江恭充・永瀬多恵子・大内美穂・永瀬美紀
- ・7級…安岡佐織・岡本裕治・岩釣貴志・永瀬安伸・猪野寿憲
- ・6級…大内貴洋子
- ・5級…阿部浩二

さわやか君



西村 宗



広報なかつえ 1号

あけまして
おめでとう
ございます

今年もよろしく
広報なかつえMAN

雑記

あらたな気持ちでスタート。さて、どんな記事を掲載しようかと思いつきながら、やはり新年らしく年頭のあいさつから。

みなさんも新年に対し、自分なりの抱負があると思います。具体的にはどう答えられるものはないと思います。要するに短かめに「がんばりマース」ということでキマリ。

今年は何をしよう、これだけはやらなければ、と思つて繰り越し。毎年のことで繰り越しの増えること。おまけに利子までついてきて可能なことまで不可能になつてしまふ。これがお金だつたら言うことはないのだがと現実的に。

かしこまつて、今年も広報なかつえのご愛読をよろしく。まずこの一月号、おめでとうと言う言葉がいくつありますかと聞けば、も一度スミからスミまで読んでいただけなのはと安易な考えで、やはり内容あるもので今年も勝負。